

「御言葉を求め、共に集う恵み」

神様、3月になりました。庭に埋めたチュウリップの球根も急に伸びてきました。春はやっぱりうれしいです。今日は暖かくて散歩に行きたいけれど、でもその前に、この一週間の、あなた様からいただいた恵みをご報告します。「生きたと言えるほど生きてみたい」とずっと願っていた愚かな私に、このように日々お答えくださるのですから。

3月8日、昨日のことですが、清見台集会では、

☆『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』

ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。(ルカ福音書 19:46)

との御言葉から、Hさんが「聖書を読み始めて、聖書の中に書かれている罪が、あっこれも私のこと、これも私のことって、私って罪だらけだってわかるようになった」と言われた。そして最後に「どうか私たちの心が、強盗の巣にならないように、祈りの家にして下さい」と心を合わせて祈れた恵み。午後の桐が丘集会では、

☆「信仰には……愛を加えなさい。……これらを備えていない者は……近くのものしか見え ず、以前の罪が清められたことを忘れています」(2ペトロ 1:10)

との御言葉から、Kさんが「いつのまにか自分や自分の家族のことばかり考えていた。近くのものしか見えないのは、イエス様を忘れてるってことだね」と言われ、イエス様が与えてくださった「尊く素晴らしい約束」を思い起こし、心を高く引き上げられたこと。

3月5日、水曜集会では申命記34章から。

☆「モーセは死んだとき百二十歳であったが、目はかすまず、活力も失せてはいなか

った」(申命記 34-7)

との御言葉から。人が死ぬのは力が衰えたからではなく、神様の時が来たからで、その人の使命が終わったから死ぬんだねえ、と教えられたこと。

3月4日、クローバー集会では、

☆「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」
(ロマ書 14:17)

という御言葉について話し合っていたとき、若い Y さんが、「あっ、そしたら喜びって、何かをして喜ぶとか、何かがあって喜ぶとかじゃなくて、イエス様ご自身が喜びっていうことですか」と、輝くような顔で声を上げた。後で思い出してもうれしかったので、「何かがあって喜ぶんじゃないって、イエス様が喜びってすごいね。これって啓示だね」とメールを送ると、「私にも啓示を与えてもらえたんだと思うと、とても嬉しいです」とすぐに返信があったこと。

3月3日、主日礼拝はエレミヤ書 29、30 章。長い間学び続けたかいがあって、

☆「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしに出会うであろう」(エレミヤ書 29-11~14)

という素晴らしい恵の御言葉に、厳しい裁きの神様の内に秘められた永遠の愛を見た思いがして、一同感謝。

☆創世記から読み始めたメール集会も「ハガイ書」まできて、この頃やっと、一章一章

を丁寧に読むようになった。すると、斜め読みしていた頃とは違って、恵も倍増。今から2500年も前に、預言者ハガイによって語られた御言葉が、時空を超えて今も響き渡っているのを感じる。

種を多く蒔いても、取り入れは少ない。

食べても、満足することなく……

金をかせぐ者がかせいでも

穴のあいた袋に入れるようなものだ。1:6

今の私たち日本人の愚痴を聞いているようだ。世界には食べ物もなく死んでいく子供もいるというのに、「この日本で満足して暮らすためには、原発を止めるわけにはいかない、さあ、何が何でも、もっと豊かになろう、もっと強く元気な国にしよう」と言われて、なるほどそうかとうなずいている。そんな私たちに、ハガイは今も語っている。

それはなぜか(なぜ満足できないのか)、と万軍の主は言われる。

それは、わたしの神殿が廃虚のままであるのに

お前たちが、それぞれ自分の家のために

走り回っているからだ。 1:9

旧約のこの時代、神殿こそ神様が臨んでくださる、礼拝の場所であった。長く辛かったバビロン捕囚からエルサレムに帰ってきても、その神殿を荒れ放題にしておいて、自分の家のために走り回わり、自分の生活に夢中になっているなら、人は満たされることはないというのだ。旧約時代、神殿とは建物であったけれど、新約聖書では、「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知ら

ないのですか。」1 コリント 3:16 とあるように、「神殿が廃墟のままである」とは、私たちの心の中が空っぽで、神様を無視して、自分の満足ばかりを追い求めているということだ。神様に造られ生かされている人間は、心の中心に神様をお迎えしない限り、決して満たされることはないと言ハガイは告げる。

そんなイスラエルの民に、ハガイを通して与えられた3度目の主の御言葉は、私たちにとっても言いようのない喜びである。

この日以後、よく心に留めよ。この9月24日

主の神殿の基が置かれたこの日から、心に留めよ。

倉には、まだ種があるか。

ぶどう、いちじく、ざくろ、オリーブは

まだ実を結んでいない。

しかし、今日この日から、わたしは祝福を与える。ハガイ 2:18～19

神様、この御言葉が、うれしくてうれしくてしようがありません。この私も、たとえまだ善き実を結べなくても、イエス様を信じてあなたを様を心の中心にお迎えし、この私をあなたの様の神殿としてお捧げしたその日から、確かに祝福は惜しみなく注がれています。それは、本当です。あなたにすぎるより他、生きるすべを知らず、あなたの御言葉だけが私の財産。でもこんな幸いな人生はないと、心の底から思っています。神様、ありがとうございます。